



# 東京多摩プロバスニュース

第 59 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 広報委員会 2015. 3. 4

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

## 多摩の地域文化を育てよう

### 第 127 回 定例会

日 時 : 平成 27 年 1 月 7 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 26 名(会員数 35 名)

### 第 128 回 定例会

日 時 : 平成 27 年 2 月 4 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関・一つむぎ館第 1 会議室

出席者 : 27 名(会員数 35 名)

### 理 念

1. 豊かな人生経験を生かして地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

### ◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

#### 「地域奉仕について思うこと」

総務委員長 倉賀野武士

最近経験した二つのちょっといい話を通じて、社会奉仕について考えてみました。

最初は昨年 10 周年記念式典・祝賀会でのことです。フォークデュオ☆アルビレオ☆の岩佐玲子さんが“マイウェイ”を歌われたのを覚えていますか？その時はただ美声に聞きほれていましたが、後日翻訳家である滝川(益)会員から、あの歌の最後のフレーズ“私は卑怯な生き方はしてこなかった”は、通常

“いつも私のやり方で”と訳されており、岩佐さんが会の流れ全体を通じてプロビアン(Probian)の生き方に感銘を受け、咄嗟に中村会員の承諾を得て詞を変更したとのことでした。岩佐さんの優れた表現力と中村会員の連繋、訳詞の変更に気づいた滝川会員、そんな陰のドラマを後で知って、式典の準備や当日の不手際を責められ落ち込んでいた気持ちが一気に晴れる思いでした。ちなみにアルビレオとは白鳥座の「くちばしの星」と呼ばれ、全天で最も美しいとされる二重星です。

次はバスの運転手の話です。日頃利用しているバスに、いつものように、新聞紙に

木の枝やガラクタ(宝物?)をいっぱい抱え込んで精神障害の青年が乗ってきました。その日は虫の居所が悪かったのかひっきりなしに奇声を上げ続け、乗客は見ぬふり、聞かぬふりをして我慢していましたが、彼が降りる時、運転手が「〇〇君今日は元気がいいね！」と半分は乗客に迷惑を詫びるように声を掛けました。車内にほつとした空気が流れ、それまでしかめっ面をしていた自分が恥ずかしくなりました。

日頃の身の丈に合ったほんの少しの気遣いや行動が社会奉仕に繋がるものと実感した次第です。



桜花爛漫の並木 <多摩市奈良原公園>

## ◇◇◇ 幹事・委員会報告 ◇◇◇

### 1. 幹事報告

西村政晃幹事

#### 1.1. 山田正司会長 東京多摩ロータリークラブで卓話

山田会長は、去る1月19日(火)「多摩ニュータウン建設と郷土かるた」と題して卓話を行なった。

- ①歴史のなかの多摩市…縄文、江戸、明治～現代
- ②多摩ニュータウン建設の概要…建設の具体例、多摩ニュータウンの再生(諏訪団地の例など)
- ③「多摩プロバスかるた」…企画～作業過程、成果紹介
- ④多摩市の首都圏での業務核都市としての位置づけ

以上、山田会長は多摩ニュータウンの建築設計を極めて多く手がけられ、そして多摩地域のことが詳しいだけに、最後に「ふるさととして誇れるまちに! 東京オリンピックでは世界にアピールしよう! さらに将来、多摩ニュータウンが世界遺産になってほしい!」と結ばれた。

#### 1.2. 滝川道子会員 埼玉浮き城プロバスクラブで卓話

滝川道子会員は、昨年12月19日(火)埼玉浮き城プロバスクラブで「今に生かす江戸の心」と題して、1時間半にわたって「江戸しぐさ」について卓話を行なった。今回の内容の主なポイントは次のとおり。

- ・「お目見えしぐさ」…江戸しぐさは自然と共生し円満な人間関係を保つために生まれた、江戸商人のリーダー達の思いやりの心から生まれた実践哲学
- ・「挨拶は江戸しぐさの基本」…人と人の中には先ず挨拶
- ・「江戸しぐさは代々親から子へと伝えられた口承文化」
- ・「江戸の子育て」

など、分かりやすく話された。

### 2. 委員会報告

#### 2.1. 総務委員会

倉賀野武士委員長

- 1) 1月度定例会は全員参加による「新春かるた大会」を開催(参加者25名)し、盛会であった。関連記事P2参照
- 2) 2月度定例会の卓話は、上田清会員による「ミツバチ多摩ちゃんの世界」を実施。関連記事P3参照
- 3) 1月末に鴻池会員が退会し会友となった。
- 4) 3月の定例会は、永島仁、平田哲郎両会員の「卒寿を祝う会」を計画。
- 5) 名簿と会則をワンペーパーにした折り畳み式の試作品が上田清会員より提案され、理事会で大筋の了解を得てサイズ、紙の質について検討中。

#### 2.2. 研修・親睦委員会

鈴木達夫委員長

3月31日(金)「屋形船」によるお花見昼食会実施予定。

#### 2.3. 地域奉仕委員会

森川静子委員長

- 1) 「多摩プロバスかるた」の普及活動

①1月の定例会(1月7日)で「新春多摩プロバスかるた

大会」を総務委員会と共同で実施。関連記事P2参照

②1月14日唐木田菖蒲館との打合せを実施。

関連記事P4参照

- 2) 出前講座そろばん教室

貝取・愛和・連光寺・多摩第二の各小学校で、2月～3月にかけて実施されるそろばん教室の日時が決定した。

- 3) 傾聴ボランティアグループ「福寿草」主催 平成26年度「傾聴」入門講座

3月7日から8日にかけて実施される「傾聴」入門講座に多摩プロバスクラブから7名が参加予定。

地域奉仕委員会の皆さん



#### 2.4. 広報委員会

稲田興委員長

- 1) プロバスニュース第59号(3月4日発行)の編集会議を

1月21日に実施。編集計画内容を1月28日理事会で説明し、了承を得た。2月4日の定例会で原稿執筆依頼。2月20日・25日の編集会議を経て、最終校正を実施。

- 2) ホームページは、プロバスニュース第58号の内容等を反映させ、1月21日に更新公開中。

## ◇◇◇ 新春かるた大会 ◇◇◇

倉賀野武士総務委員長

多摩プロバスかるたの普及活動の一環として、「かるたプロジェクト」の指導のもとに1月7日の定例会に全員参加による「新春かるた大会」を開催した。各委員会と役員計5チーム、25名による個人戦、団体戦とした。読み手は古澤靖雄、瀬尾日出男会員にお願いし、対戦相手を変えて2回戦とした。親睦のためルールは基本的なもののみとした。最初はやや硬さが見られたが次第に真剣な顔になり、目前の札を取られたり、お手付きの度に歓声が上がり、しばし少年・少女の頃の顔に戻り白熱線を繰り広げた。熱戦の結果、個人は小西加葉子会員が39枚で優勝、同じく39枚で澤雄二会員が準優勝、3位北村克彦会員34枚、団体は優勝、研修・親睦、準優勝、地域奉仕、3位、広報の各チームとなり、山田会長より素晴らしい(?)賞品が授与され、蜜柑を食べながら戦果を讃えあった。この実戦経験を今後のコミセン、学校・児童館等の普及活動に活かしたい。

**ミツバチ多摩ちゃんの世界**

多摩ミツバチプロジェクトに参加して丁度5年が過ぎ最近ではミツバチ家族のご機嫌や健康状態が何とかわかるようになってきました。先方でも飼い主を認識しているらしく、今ではお互いに友好・信頼の関係を築いています。

この愛称「ミツバチ多摩ちゃん」のふる里は銀座3丁目で、10年ほど前に松屋ビル近くのパルプ会館屋上で飼われていた1群を多摩のプロジェクトが譲り受けたものらしく、当時としては「銀バチ」で名高い高貴な蜂であったようです



上田清会員

が、寒さ対策や栄養補給等の不慣れから越冬ができず、今もなお養蜂の難しさ奥深さを痛感しているところです。しかしながら、多摩地域は多摩丘陵や昭和記念公園等の緑地があり梨や栗などの果樹栽培も盛んなことから、ミツバチにとっても大変暮らしやすい環境のようで八王子や立川等



でも養蜂家が徐々に増えつつあります。

ところで、ミツバチと人間との関係は大変古くて、紀元前6千年頃のスペインの洞窟壁画に蜂蜜をとる情景が描か

れていたり、古代エジプトでは養蜂業も誕生して蜂蜜を食すのみならず、プロポリスをミイラの防腐剤にしたり、クレオパトラの美容や民間の治療薬としても利用されたりしてきた歴史があります。

その後の変遷の中では、一方的に蜂蜜を強奪?していた時代から家畜的に飼育する「養蜂の時代」となって以来、蜂蜜の



量産が容易となったほか、果物や野菜等の受粉促進などで人間との共存共栄の関係が益々深まりつつあるといえます。しかし、近年の地球温暖化による気候変動や農薬等による環境汚染、病害虫等の発生などからミツバチの生存環境は年々厳しさを増しており、1990年代から度々起きているミツバチ多量死事件は世界的な問題となっています。「ミツバチにとって暮らしやすい環境は人間にとっても暮らしやすい」といわれますが、まさにミツバチは環境問題を提起し人間社会に警鐘を鳴らしているのかもしれない。

かつてナポレオンがミツバチを紋章としたように、多摩から養蜂の灯が消えることのないようミツバチと共存できる環境づくりを心がけて、人間にとって身近かで愛らしい昆虫を大切にしていきたいと思っています。

◆◆◆ 3分間スピーチ要約 ◆◆◆

**知って得するテレビニュースあれこれ 澤雄二会員**

「数十人」とか「数億円」とか言った時の「数」は具体的な数字にするか幾つになるかご存知でしょうか。「2から3でしょう」違うんです。正しくは「4から6」です。英語で言うと「several」です。「2から3人」は「にさんにん」というしかありません。英語で言うと「a few」です。



[警察発表によりますと、川崎街道で乗用車とトラックが衝突し3人が重軽傷を負ったということです]。この原稿の間違いはどこでしょうか。「・・・と言うこと」は事実伝聞などで不確な時に用います。単純な事故で警察発表ですからここは、「・・・が重軽傷を負いました」が正解です。これらはニュースでは重大な誤報なのですが、訓練を受けた記者も時々ミスしています。皆さんも番組を観察されてはどうでしょうか。

気象衛星「ひまわり」の映像は雲が動くものと思われていますね。しかし、ひまわりが撮っているのは写真で動画ではありません。ですからテレビも最初は写真を一枚毎使っ

ていました。本格運用されてから3か月経った時、気象衛星センターを視察しました。その時あるアイデアが浮かび、数十枚の写真を持ち帰りました。社に戻るとその写真を「電子的にオーバーラップしてみて」「出来ました見てください」ひまわりの雲は見事に動いていました。「ペラペラアニメ」の原理です。フジが放送してから半年後、日本のテレビ局はすべて雲が動いていました。一年後には欧米のテレビ局も。「コロンブスの卵」のようなアイデアでした。

もう一つ天気の話です。碁盤の目の様に日本列島を細かく区切った予報があります。「メッシュ予報」と名付けました。晴れや雨のマークの予報ではテレビ画面に20ヶ所も表示できません。全都道府県の半分以下です。ネット局からも「自分の県の予報がない」と苦情が絶えませんでした。何とかならないか、思いつきました。全国17km毎に設置されているアメダス情報を利用することです。厳しい苦しい試行錯誤の末、半年後に完成させました。アメダスの現況と気象庁の降水確率や風向、風速などの予報を組み合わせたものです。自分の町の予報の誕生です。NHKが使いたいと要請して来ましたが、一年間はダメとお断りしました。一年後、気象庁がメッシュ予報を採用しました。

## 1. 多摩プロバスかるた普及プロジェクト

大澤巨リーダー

多摩プロバスかるた(以下「かるた」と略称)の普及活動についてはプロバスニュースでその都度報告されているが、これらを含む現在までの状況は次のとおり。

- (1) 市内の公立小中学校校長会で全校長先生に「かるた」を寄贈した。その結果多摩第一小、北諏訪小の2校から追加配布の要請があり、また東愛宕中ではこの「かるた」によるかるた大会が実施された(56号)。
- (2) 多摩ロータリークラブ・多摩市教育委員会共催で当クラブも協賛している中学生俳句大会で本年度の入賞者30名全員に副賞として「かるた」を贈呈した。
- (3) 多摩市青少年部に「かるた」を寄贈し市内の児童館・学童クラブでの活用を依頼した(57号)。
- (4) 社会福祉協議会にも「かるた」を寄贈し、同協議会が所管しているボランティアセンターやサロンでの展示や利用を働きかけた。1サロンで6月に「かるた」の講演会を行う予定。
- (5) コミュニティセンターでは、トムハウス、愛宕かえで館、ひじり館、貝取こぶし館で秋祭りや正月の飾り付けとして「かるた」の現物や絵札の原画



愛宕かえで館の展示風景

が展示された(57号)。

さらに唐木田菖蒲館でも今年ワールドキャンパスの行事の一環として8月にこの「かるた」を展示したいとの希望があり協議中である。

注記；各項目末の括弧内の数字は当ニュースの号数

## 2. 新年句会

登坂征一郎会員

からまつ東京地区新年句会が1月11日(日)港区ヒューマンプラザ(花みずき句会のホームベース)で各句会のメンバー45名の参加をえて開催され、当クラブ句会からは、岡野・神谷・北村・倉賀野・鈴木・滝川・西村・蓮池・増山各会員と筆者の10名が参加。

兼題は「賀状」と当季雑詠各1句。50名から100句の投句があり、その中から参加者各自が2句を選句して提出、山鳩句会の世話役に披露が開始された。次々と選句された句と作者が読み上げられ緊張が走る。それが作者の得点となる。今年は雪二主宰と山つつじ会の貴帆さんの句が競り



句会を終えて

合って得点を重ねて1位、2位を分かち、惜しくも僅差で当句会会の倉賀野志水さんが3位を獲得、増山胡桃子さんが7位とベストテンに入りました。

他人めく嫁ぎ先より年賀状

志水

指一つ立て目くばせのお年玉

胡桃子

## 3. グルメサークル(純インド式カレー)

西村政晃会員

今回の昼食会は新宿中村屋ビル8階のGranna(グランナ)で行いました。参加者は山田会長以下16名。

純インド式カレーをメインに、スパイス前菜5品、キャベツとビーツ(砂糖大根)のスープ、デザートはマンゴウのシャーベットと紅茶・コーヒーのコースを選びました。



新装のレストランで純インド式カレーを堪能

この純インド式カレーは玉ねぎをとろとろになるまで炒め、骨付きチキンを入れ調理されたサラサラした香り高いもので、食べるとクセになる方が多いようです。

わが国でポピュラーなカレーと純インド式カレーの違いについて、前者は18世紀にインドからイギリスに渡り小麦粉を加えたマイルドな英国風インド料理に変身。明治時代に洋食のカレーライスとして日本へ入ってきました。

後者は、大正4年、インド革命の志士ラシュ・ビハリ・ボースが日本に亡命、新宿中村屋の創業者相馬夫妻とその長女俊子が、身を投げうって彼をかくまいきったのでした。昭和2年、新宿中村屋は食堂をオープン。日英同盟が解消され娘婿になっていたボースの提案、調理指導で香り高い純インド式カレーが伝えられたのでした。

## 4. 歌を楽しむ会

瀬尾日出男会員

年明け最初の会を1月21日つむぎ館ホールで歌い始め、日頃親しんだ曲の「いつでも夢を」「お嫁においで」をメインに二重唱として、メロディー部、低音部に分け、迷いながらもみんな大いに声を出し練習しました。

中村昭夫リーダーより今日は比較的良好、70点程度の成果あり、あとひと踏ん張り、何とか会の持ち歌にしようとの応援があり、少しばかりの自信?を持てるところまでになりました。

これからも毎月続けながら、より参加者が増えますと一層盛り上がりますので、皆さんお待ちしております。



### 1. 多摩男声合唱団演奏会

中村昭夫会員

2月15日(日)、私の所属する多摩男声合唱団の定期演奏会がパルテノン多摩大ホールにおいて行われました。1400人入る会場はほぼ満席という大変な盛況でした。パルテノン多摩の担当の方からは、アマチュアの1団体が大ホールを満席にするなど大変珍しいことだと称讃をいただきました。

演奏会プログラムは、第1ステージ「松下幸作品集5局」、第2ステージ男声合唱組曲「吹雪の街を」、第3ステージ「僕の心に残る歌」のテーマのもと、「川の流れるように」「菩提樹」「野風僧」「YESTERDAY」などみなさんがよくご存じの8曲を演奏、3ステージ構成で何曲かはソプラノソロとの共演演奏も行いました。来場者から大変な喝采をいただくことができ、「すごい集客力だ」「素晴らしさに感動した」「心に響いて涙が出てしまいました」などの賛辞をいただくことができました。



「多摩男」の名入の法被姿で熱演

多摩男声合唱団は創立以来42年を経て、多摩市で活動する合唱団の中でもっとも長い歴史を持っていますが、これからも老骨に鞭打って練習に励み、もっと素晴らしい男声ハーモニーをお聞かせできるように頑張っていく所存です。

### 2. 多摩市主催の「新春歩こう会」に参加

倉賀野武士会員

1月25日(日)、恒例の「新春歩こう会」が開催され、多摩ウォーキングクラブ会員の岡野・鈴木・増山・倉賀野他に、当クラブから北村・登坂会員がゲスト参加し、総勢9名のチームとして、登戸河川敷から川崎大師駅まで約20kmのコースを歩いた。当日は天気も良く、多摩川の冬景色を堪能し、途中マラソン大会や少年野球、ゴルフを楽しむ人たちを横目に見ながら5時間弱で全員完歩した。ゴール後、川崎大師に今年の安全を祈願し、お土産の「久寿餅」を買い、足腰をさすりながら帰途についた。



完歩し安全祈願の川崎大師

大師まで歩く多摩川春隣

志水

### 3. ちゃんこ料理

瀬尾日出男会員

1月30日、ヴィータ7階に閑取が来所、当クラブの秋山正仁・北村克彦両会員と筆者が参加し、大いに賑わいました。かねてより案内の多摩市社会福祉協議会ボランティア活動の助成事業の一環として、現役相撲部屋のちゃんこ料理を楽しみました。



閑取を囲んで

当日は式秀親方(元小結北桜)・おかみさんと弟子によるちゃんこ作りを、参加者と一緒に野菜などの切り方、味付けなど本格的な料理指導があり、手際よく？ちゃんこ当番を楽しみながら作り上げ、ホッと一息。

途中、ビンゴゲームによる相撲グッズの賞品に参加者は大喜び、その後の試食は、親方による部屋独特のちゃんこ味、その由来紹介などがあり、大変ヘルシーなので沢山お代わりして下さいとのこと、一同大喜び、「ちゃんこ料理」を堪能しました。

その後、折角の機会でもあり、相撲に関する質問のやり取りがあり、相撲人気の復活に皆さん関心を寄せました。

イベントの終わりは親方の「相撲甚句」の美声に聞き惚れ、無事お開きとなり会の主旨は達成、皆さん満足して散会しました。

### 4. 初釜

小西加葉子会員

平成27年1月10日、自宅茶室にて初釜をしました。参加者は私を含め生徒9名。晴れ着を着て皆さん嬉しそう。まず桜湯を頂き、茶室に入席。小炉の手前は男性、そしてほうじ茶の手前は若手2名にしてみらい、本席では玉露手前の後、蓬萊飾り(塩は山型、かち栗、昆布)で屠蘇を頂き、改めて新年の挨拶をしました。

煎茶の茶事はテーブルで普茶料理を頂きます。今年は前菜に八運料理を出しました。(にんじん、れんこん、きんかん、なんきん、はんぺん、ぎんなん、いんげん、きんとん)語尾に“ん”がつく食材を8種類そろえます。これは八が末広がりなので、“今年も運が広がりますように”ということです。

初釜は、生徒は喜びますが、先生は疲れる一日です。

日本の伝統文化を次の世代に繋げる役は年とともに“しんどく”なっています。



八運料理



ほうじ茶の席

5000 人の第九コンサートに参加 阪東熙子会員

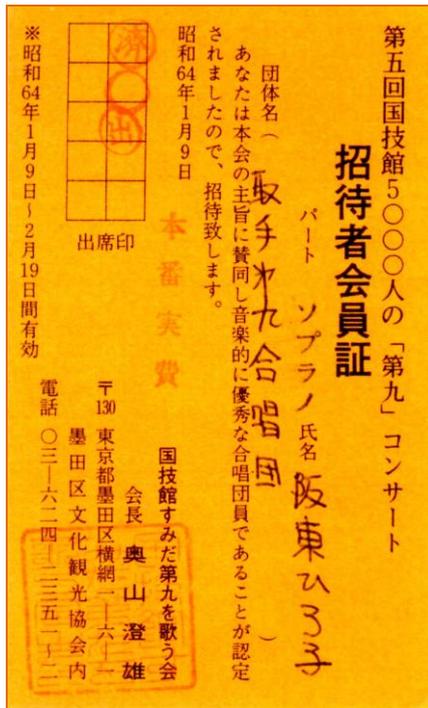
2015 年 2 月 22 日(日)両国国技館において、『届けよう愛と平和のメッセージ』をテーマに第 31 回目のコンサートが開かれました。全国からわれもわれもと申し込みの団体があり、その世話役の「すみだ第九を歌う会」事務局では、去年 11 月 25 日で締め切る程の盛況ぶりでした。参加者募集のパンフレットには初心者歓迎とありますが、参加するのは、セミプロまがいの声に伸びのある面々、独語マスター組、全曲暗唱 0 K の強者揃いです。

私が国技館に初めて参加したのは、昭和 64 年 1 月 9 日とカード(右下)にあるように「国技館すみだ第九を歌う会」という小さな合唱団団員の時でした。その後、取手市内の男声コーラスに、長年の知人がおり、たまたま練習会場で、お薄を点てて差し上げたのが縁で移籍し、20 年余り、取手第九合唱団団員となり、行動を共にしています。

今年の国技館での指揮者は松尾葉子氏で、オーケストラは新日本フィルハーモニーと変わりませんが、ソリスト 4 名は毎年変わります。一流のソリストや、オーケストラとの音合せ練習時間がとても少なく、我々にとっては、少々不安ですが、去年の 1 月 26 日から練習スタートしていると自負して、プロとの共演に挑んでいます。

ベートーヴェン作曲ニ短調、作品 125 番第九全曲が始まって、自分達の出番まで待つ間が長く、身じろぎもせず、咳払いもせず、大変緊張しますが、近頃は第一楽章第二第三を聞く余裕が出てきました。

十人十色、得意不得意、好き嫌いとも色々あって、人生面白いと思います。『第九なんて…』と抵抗ある方もおられますが、今や年末の風物詩となり、各都市にも合唱団がありコーラスする人は一回位歌ってみたいと思うほど、ポピュラーなものになってきました。歴史的に日本では、四国徳島から始まったのは、皆さん周知のことです。



今年も参加した筆者

話が逸れますが、本場のドイツで厚かましくも、第九を歌ってきました。それは、ヘルベルト・フォン・カラヤンの聖霊降臨節音楽祭が 1998 年にバーデン・バーデンで行なわれ、同年の 5 月 9 日にフェスティバルホールのオープニング演奏会への参加でした。日本人は我々取手の 32 名だけです。当日の一週間前から現地入りをし、ドイツ人のシュティーフル氏の厳しい指導を受けゲネプロ、本番と夢中で歌いました。というより、体の大きいドイツ人の間に挟まれ叫びました。その時の旅行の仲間も今回各パートにおります。皆あの訪独から 18 年も経っていますが、各自健康で歌えるのは、幸いなことです。

さて、国技館では歌い終りタクトも降ろされると、館内割れんばかりの拍手が暫く続きます。ややあって後コンダクターの姿が、東のゲートに消え、第一第二バイオリンの楽員がそれぞれの楽器を手に、左右の花道に動き出し、中央の赤い敷物が、次第に広がり現れてきます(お相撲の時は土俵や砂被りと言われる席のところ)。いつの間にか、女性の白いブラウスの姿が東西のゲートに、ぞろぞろ動き出し、中央後方の男声の黒いスーツ姿が少なくなっていく頃、スタッフが忙しく走りまわり椅子を片付け出すと「今年も終わった」と席を立ちます。

しかし場内は、達成感と開放感がフォルティッシモになり、滝廉太郎の「花」を墨田の小学生 8 名も加わり、全員で熱唱、客席からも良い声が響き、楽しく幕を下ろしました。北海道と京都からは、1 名ずつの勇氣凛々の人や、300 名も送り込んで来る県もあり、多彩な顔触れは例年通り、国技館の高い天井に掲げられた歴代横綱 32 力士の額に見守られながら無事終了。

館いで 余音楽しみ 両国の

八百八町 くれなずむ空 浮草

トルコ夢の旅紀行

滝川道子会員

昨夏、トルコ 10 日間のツアーに夫婦で参加致しました。成田発の直行便で 12 時間、7 月 25 日夕刻にイスタンブール到着。空港のタラップを降りるとき、誰かが感極まったように「ついに来た！イスタンブール！」と叫んでいました。

この日は空港近くのホテルで一泊。ツアーの一行 25 人の顔合わせが済み、主人は早くも夜の街探索へ。私は長途の空路の疲れを取るためホテルに居残りです。



翌朝、ガイドさんの案内で、イスタンブール市内のトプカプ宮殿やアヤソフィア寺院を見学。このガイドさんは昔、東京や名古屋に 2 年ほど住んだことがあり日本語がペラペラ。工科大卒のインテリながら愛嬌あるお人柄で、独特の抑揚で「みなさま～」と呼びかけます。とても楽しく、説明上手な方でした。

最初に訪れたトプカプ宮殿では、預言者ムハンマドの遺品や、86 カラットもあるダイヤの首飾りに目を見張りました。アヤソフィア寺院を出たところで同行のある婦人が主人に、キリスト教とイスラム教はどう違うのか、聞いてきました。この分野では自称専門家の主人が、「二つの宗教は、ユダヤ教と合わせてユダヤ起源の 3 宗教といわれ、唯一絶対神を信じる点で、根っこは同じですよ」と説明。でも、ご婦人は聴いていて半分判らない様子。そのご主人の T さんは秦野ロータリークラブの会長で、このご夫妻とは道中親しくなりました。



道中親しくなった T さんご夫妻と

2 日目からは弾丸道路をひた走って 10 日間、トルコ各地へバス旅行の始まりです。幹線道路の両側にはマンション群がどんどん建設中で、この国の急速な発展ぶりに一驚。初日は首都アンカラ泊、翌日はカッパドキアで奇岩を掘り抜いた洞窟ホテルに一泊。私たちの部屋がたまたま 3 室続きのスイートに当たり、皆さんに羨ましがられました。



カッパドキアの奇岩群

翌朝は、その昔迫害を逃れたキリスト教徒が住んでいたという洞窟家屋に住む家族を訪れ、そのあとトルコ絨毯見本市へ。上手な売人の口上に根負けして、高級な六畳敷きの絨毯を買わされ、思わぬ出費。

コンヤでは、旋回舞踊のメブラーナ教団の衣装や古代の羊皮紙の聖典を見学。翌日訪れた世界遺産のパムッカレは、古代ローマの石灰棚温泉で有名です。摂氏 42 度の真夏日のもと、エメラルド色のお湯で「足湯」を。その夜はホテルの中庭でベリーダンスを鑑賞。道中親しくなった T さんご夫妻とワイングラスを交わし合い、歓談しました。

旅の舞台はやがてエーゲ海沿岸へ。古代都市エフェソスでは、シーザーとクレオパトラが手をつないで歩いたという大理石の目抜き通りやアルテミス神殿跡、翌日はトロイ遺跡を見学。

ホメロスが『イリアス』に描いた木馬が実物大に復元されていて、古代ローマ・ギリシャ世界にいるような錯覚に陥りました。



トロイの木馬、お尻から撮影

旅の最後はイスタンブールへ戻ってバザールの店を冷やかし、締めくくりはアガサ・クリステイの『オリент急行殺人事件』で有名な終着駅での昼食。全長 3,700 キロを高速バスでひた走った、あっという間の夢のような旅でした。



### 多摩と私 -その3-



#### 「多摩ニュータウンと共に」 森川静子会員

昭和 40 年代、私は中・高・大学と終え、現在農政改革で話題の全農に就職した。この年代は、昭和 40 年に作られた多摩ニュータウン計画が着々と実行に移され、多摩が劇的に変化していった時代である。私の住む落合地区も例外ではなく開発の波に押され、秋になると紅葉の美しかった山々は崩され、日々姿を変えていった。

昭和 46 年に永山団地が最初に入居、人口も増えその年に多摩町は多摩市になった。その後も開発は進み様々な団地が多摩にできた。その一つ、昭和 47 年には愛宕団地ができ、母はよく 15 分の道のりの愛宕スーパーに買い物に行った。それまでは近くに雑貨屋が一軒だけだったので、生鮮食品を買う時はバスで桜ヶ丘に出て行った。母にとってどれほど愛宕スーパーの開店が嬉しかったと思う。

そして、奇跡が私の家に起こった。昭和 49 年に私の家の 300m 先に京王多摩センター駅ができ、京王相模原線が開通したのである。それまでの通勤は、聖蹟桜ヶ丘駅まで 7 キロの道をバスに乗り、そこから電車に乗り換え都内に出ていた。大幅な通勤時間の短縮になった。



昭和 44 年学友と  
(中央が筆者)

それから 5 年後  
ここが多摩セン  
ター駅となった

昭和 52 年湧き水の出る私の家は区画整理のもと、整地した 100m 先の駅の近くに移った。その頃になると、かつての水車小屋は取り払われ、田んぼは整地され、私の家のあった裏山は切り崩され当初の姿がすっかり無くなっていった。近所の家々はすべて転居させられ、新築の家々が多摩センター駅の周辺に点在することになった。

私の家はニュータウン通りの車道に面し、車の音に悩まされるようになった。便利になったものの、かつての静かな生活は失われ、騒音との戦いの日々が続いた。

その後、私は結婚し多摩市和田に住み、平成 23 年に長年勤めていた全農を退職し現在に至っている。

今、改めて我が人生を振り返ってみると、結婚の相手も幼馴染で多摩市の住民であったから、私は多摩から一步も外に出たことがない生粋の多摩っ子なのである。

3 年前に和田から交通の便の良い、聖蹟桜ヶ丘駅前のザ・スクエアに引っ越してきた。今はリフォームした茶室で趣味の茶道を静かに楽しんでいる。家族の少ない私にとって月 2 回の学校茶道の指導は、生徒が孫のように可愛く、また若い彼らからパワーも頂いている。また、10 年前に多摩市茶道連盟に入会し頑張っているが、これからも地域への奉仕を忘れず楽しい人生を送って行きたいと思う。



### ハッピーバースデー



1 月誕生日を迎え  
られました！

左：堀内陽二会員  
右：稲田 興会員



2 月誕生日を迎え  
られました！

左：古澤靖雄会員  
右：山田正司会員



### 編集後記



東京オリンピックの開催を控え、日本文化の素晴らしさを再認識しようという声が高まっている折、たまたま「日本の国歌“君が代”が海外で大人気！」という記事が目にとまり調べてみると次のような賛辞(欧米中心)が数多く寄せられていた。○メロディが素晴らしい ○長い歴史や素晴らしい伝統を誇る日本文化にマッチした素晴らしい国歌だ ○日本語は音楽のように美しい言葉である ○美しい自然と精神を誇る日本の凜としたイメージにふさわしい名曲だ ○歴史ある王朝(天皇家)に栄えあれ！ ○シンプルな国旗そしてシンプルな国歌、まるで聖歌のような落ち着きを与える名曲だ 等々。かつて、ドイツで行われた「世界国歌評定会」で“君が代”が第一位の秀歌に選定され、また巨匠カラヤンも“君が代”は世界最高の国歌であると賞賛したと伝えられる。

さて、身近なところで日本文化の素晴らしさを教えられ気を良くして顧みると、我がクラブの中の「日本文化の伝承者」の層の厚さに改めて驚かされた次第である。煎茶・茶道の各教授、古武道(直心影流薙刀)の指導者、貝合わせの研究者、江戸しぐさ語り部の指導者、日本舞踊の花柳流名取、囲碁の高段者、俳句同好会、伝統建築に造詣が深い建築家、新進の陶芸家等まさに多士済々である。広報委員会としても今後日本文化の伝承に一層深い関心と理解を持つ必要があるようだ。(広報委員 平田哲郎記)

東京多摩プロバスクラブ  
作詞 池田 寛  
作曲 中村 昭夫  
聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて  
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と  
社会奉仕に力をそそぐ  
集う我等プロバスクラブ  
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ  
霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い  
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の  
教を導く糧となる  
集う我等プロバスクラブ  
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ